



平成 21 年度春季講座第 1 回 講演要旨

「鶴岡八幡宮・若宮大路」

講師：NPO 法人鎌倉考古学研究所
とき：平成 21 年 5 月 23 日（土）

斎木秀雄 さん

ところ：鎌倉生涯学習センター第 5 集会室

◎頼朝と鶴岡八幡宮

鎌倉初期の地形は、由比ガ浜と御成小学校あたりは砂丘であり、材木座の海寄り西側は湿地帯で東側は砂丘だった。鎌倉駅あたりから北方は水田だったと考えられる。なお、滑川は現在東勝寺跡あたりの岩盤上を南へ流れているが、自然の川が岩盤の上を流れるのは不自然で、かつては西の方向に流れ、今小路（この路は 15 世紀頃に造られた）あたりから南へ流れていたと推定できる。開発は水田地帯から始まった。頼朝が先祖旧跡の地である鎌倉に入ったのが治承四年（1180）、由比若宮を現在地（小林郷北山）に遷し、屋敷を大倉に造営する。いわゆる大倉幕府である。翌年に鶴岡八幡宮が、次の年、寿永元年（1182）には若宮大路が造営された。八幡宮は神仏混淆であるから、御宮周辺に二十五坊が営まれ、鶴岡八幡宮寺としてほぼ完成を見たのが建久年間（1190～1198）であった。明治 2 年（1869）までに、神仏分離政策で大塔・鐘楼などが破却されて現在に至る。

◎鶴岡八幡宮の主な発掘調査

主な発掘調査の地点は以下の通りである。

1. 鎌倉市立授産所用地（1967 年）
2. 直会殿用地（1979 年）
3. 裏八幡西谷遺跡－県立近代美術館別館用地（1980 年）
4. 研修道場用地（1981 年）
5. 鎌倉国宝館用地（1982 年）
6. 鶴岡文庫用地（1987 年）
7. 若宮大路（1989 年）

2 地点からは、大塔の基礎、天正の指図に描かれた回廊、鎌倉初期の参道などが確認された。4 地点からは、東側の土塁、内側の溝、最下層では、最も西の国宝館寄りやや湾曲した溝（7 溝）が確認されている。12 世紀第 3 四半期頃で、初期溝の可能性はある。漆器や木製品などが出土しているが、7 溝の出土遺物は、平泉遺跡群の衣川館辺で出土する遺物に類似しており 12 世紀後半のものである。土塁は 13 世紀初期には造られている。5 地点では、4 地点の 7 溝以前の遺構が確認され、男女を合葬した土壇墓が発見された。11 世紀から 12 世紀初頭の水田があり、それが埋没した後に

合葬墓が造られ、さらに墓が埋没した後に八幡宮が造られるという流れが見られる。

二十五坊の遺跡は 1、3、6 地点に跨るが、1 地点の調査では、鎌倉から江戸時代までの遺跡が良好に確認されたことにより、授産所の計画は変更され、遺跡は保存されることとなった。古都保存法制定の契機となった調査である。3、6 地点からは鎌倉時代から近世にかけての坊が確認されている。

7 地点は、若宮大路両側の電線埋設化に伴って調査されたものであるが、鎌倉女学院北西の交差点付近から、一の鳥居の柱が発見された。天文 22 年（1553）に建立された鳥居である。現在の鳥居は寛文 8 年（1668）、徳川家綱が建立したものである。発見された鳥居は、天文 4 年（1535）、安養院の僧、玉運が夢に見て再建を企て、上総峰上に用材を得、天文 9 年（1540）に鋸初め、中断の時期があって完成したのが天文 22 年であった。三重に木材を結合した「チギリ」という構造で、発見上部の直径 1.6m。八角形の中心材に、8 枚の中周材を組み合わせて 16 角形とし、その周りに 16 枚の外周材を組み合わせて、外側を円にしている。この柱と対をなすもう一本の柱は明治時代に掘り出されて消失している。

◎発掘調査から見る鶴岡八幡宮

一の鳥居は、鎌倉女学院北西の交差点北西にあった。この前にある道路が車大路で、段葛・若宮大路はここから始まる。南は前浜といい、砂丘となっていた。由比若宮は潟湖の北岸近くの砂丘にあった社であった。5 地点の国宝館用地には八幡宮創建前の合葬墓があったが、埋葬地と被葬者は源氏にかかわりが強いと考えられる。

八幡宮から東側は永福寺・大慈寺までが大倉、西側は寿福寺まで含めて亀ヶ谷という地名で、八幡宮だけが小林郷北山と称されている。以前の名は亀ヶ谷だった可能性がある。義朝の「鎌倉の榎」は亀ヶ谷（寿福寺辺り）といわれているが、そこは地形が狭く、ふさわしい場所とは思えない。「鎌倉の榎」は八幡宮の辺りにあったのではないだろうか。大胆な仮説であるが、そのように考えれば、合葬墓の存在意義も理解しやすく、頼朝がそこを鶴岡八幡宮の鎮座する地として選んだ必然性が説明できる。